

訓練

総合事故復旧訓練

列車事故など緊急時における対応力の強化を目的とした訓練を毎年実施しています。平成20年11月に、寝屋川車庫において列車通過直前の踏切道に自動車が入り込んできたとの想定で実施しました。近畿運輸局・警察署・消防署の協力のもとで合計約170名が参加し、人命救助・避難誘導・二次災害防止・正確な情報伝達・事故列車の救援収容がスムーズにかつ確実に進められるよう、対応能力の強化を図りました。

また、この訓練には社長が参加し、訓示しました。

訓練開始

- ①事故発生 [13:00] 列車通過直前の踏切道に乗用車が突然侵入し列車と衝突、列車は脱線し乗用車は大破。乗務員が運転指令に無線で連絡。反対側を走行の列車を停止させる。
- ②乗客の救出 乗務員と応援に駆けつけた係員とで乗客の避難誘導を実施。
- ③関係各方面への連絡と対策本部など設置 [13:40] 本社に対策本部、現場に復旧本部設置。
- ④消防・警察到着 [13:43] 消防と警察が到着し、救助活動と消火活動開始。乗用車をエンジンカッターで切断しドライバーを救出。



▲消防隊による救出作業

- ⑤現場検証終了、復旧作業開始 [14:15] 消防・警察・近畿運輸局による現場検証が終了し、復旧作業を開始。脱線した車両の復線、踏切設備の復旧、レール締結装置とまくら木の交換、線路の整理、電車線の復旧などを実施。



▲車両係員による脱線復旧作業

- ⑥事故車両を収容 [15:00] 運転不能の事故車両を救援列車で車庫に収容。
- ⑦平常運転に復帰 [15:25] 平常運転に戻し、対策本部・復旧本部を解散。

訓練終了

総合防災訓練

天変地異や災害などに対し、適切に対応できる能力の向上を目的とした訓練を毎年実施しています。震度5強の地震が発生したとの想定で、本社に対策本部を設置し、初期対応・情報の伝達・避難誘導・関係機関との連携・二次災害防止と防災意識の向上を図るための訓練を平成21年3月に行いました。



▲対策本部

脱線復旧訓練

車両部門では、不測の事故などで車両が脱線した場合に備え、脱線復旧訓練を実施するとともに、夜間・休日でも速やかに対応できるように、緊急時連絡体制を確立し非常呼集訓練も実施しています。また、地下線などの狭い場所にも対応可能な新型の脱線復旧機材も導入しています。



▲脱線復旧訓練

地下線内火災想定訓練

緊急事態想定訓練として、地下線走行中に車両から発煙したことを想定した訓練を、運転士・車掌・駅係員・操車助役を対象に実施しています。営業運転終了後、実際に列車を走行させ、お客さまの救出、避難誘導、消火作業が迅速、的確に行えるよう、緊迫した訓練を行っています。

係員の冷静な判断力や連携を養い、万が一に備えています。昨年度は開業直前の中之島線内で実施しました。



▲地下線内火災想定訓練

駅での訓練

駅でのさまざまな異常事態を想定して行う訓練には、脱線、鉄道テロ、火災などを想定したものがああります。

写真は、昨年の中之島線開業前に実施した駅火災を想定した訓練です。

“訓練でできないことは、本番ではできない”という姿勢で、あらゆる訓練に真摯に取り組んでいます。



▲火災を想定した訓練

トップ巡視

春秋の全国交通安全運動、夏の安全運転推進運動、年末年始輸送の安全総点検など、機会あるごとに社長・安全統括管理者の現場巡視を実施しました。主要駅・列車区・車両基地・重要施設などの査察や現場の第一線で活躍している担当者との意見交換を行い、督励しました。

また、朝の出勤時に列車の運転室に添乗し、鉄道の安全に対する率先垂範の姿勢を見せています。



▲社長、担当役員の巡視